

科目名	看護学演習			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、中野実代子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、乗越千枝、守山正樹				
科目区分	演習	単位数	2 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1 年次 通年	時間数	60 時間		
<div>■ 授業の目的</div> <p>看護学演習は、合同研究ゼミナール、特別研究へとつなぐ授業科目と位置づける。国内外の文献検討やフィールドワーク、ディスカッションを行うことにより、研究テーマを絞り込み、明確にする。必要とされる理論と方法論、技法等を習得し、研究課題から研究方法を検討し、研究計画書を作成することを目的とする。</p>					
<div>■ 授業の概要</div> <p>看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
	【授業の進め方】 各担当教員と相談し、関心のある研究テーマについて以下の通り演習を行う。				
1～8	関心のある研究テーマに関する文献検討				
9～14	研究テーマの明確化				
15～20	研究テーマに関するフィールドワークとディスカッション				
21～28	研究テーマに関する研究デザインの検討				
29～30	プレゼンテーションとディスカッション				
<div>■ 準備学習</div> <p>授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。</p>					
<div>■ 教材・テキスト</div> <p>適時、紹介する。</p>					
<div>■ 参考書</div> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<div>■ 成績評価の方法及び採点基準</div> <p>文献レビュー、プレゼンテーション、討議内容から総合的に評価する。</p>					
<div>■ 教員からのメッセージ</div> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

研究指導教員名と指導の概要

・河口 てる子

看護援助モデルや教育支援モデルなど実践看護に求められる教育・支援及び慢性疾患をもつ人とその家族への援助について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探究する。

・石崎 智子

療養生活を送る人々やその支援者のメンタルケアに焦点を当てたメンタルヘルスの在り方について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探究する。

・西片 久美子

糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる成人・高齢者とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・中野 実代子

慢性疾患とともに療養生活を営む人々の生活者としての視点を踏まえた健康の捉え方と看護実践への適用について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探究する。

・安藤 広子

出生前検査や不妊治療など先端生殖医療や遺伝医療の現場における看護の課題、および先天性疾患患者(児)とその家族への看護支援の課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探究する。

・鈴木 聖子

認知症の人と家族の医療、福祉、看護をめぐる現象や課題を明らかにするために国内外の文献研究を行い研究課題の明確化とともに研究方法を検討する。

・山田 典子

虐待や暴力被害にあった患者が増える昨今、人間と環境を統合的・創造的に捉え、人間の尊厳と何か看護と何か考え、それぞれの持ち場で責任と役割を果たすために、国内外の関

・大西 文子

てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・東野 督子

療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や教育プログラムに関する研究課題の焦点化と方法論の検討について教授する。

・山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法、および臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する研究課題の明確化と研究方法を検討する。

・野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・小山 眞理子

看護教育や看護実践における現象を分析し、課題を解決するためのエビデンスに関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・植田 喜久子

がん患者や家族およびがん医療や看護をめぐる現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、自己の研究課題および研究方法論を検討する。

・眞崎 直子

地域におけるメンタルヘルスと難病患者等在宅ケアに関する文献研究を行い、自己の研究課題の明確化及び研究方法を検討する。

・中信 利恵子

災害サイクルの各期における災害医療や看護活動における現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、研究課題の明確化とともに研究方法論を探求する。

・百田 武司

特論で学んだ、ベストプラクティスを提供し、脳卒中後遺症患者・介護家族のアウトカムを向上させるための理論や方法について理解を深め、実際に研究として展開する際の計画書を作成する。

・小林 裕美

地域で在宅療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・高橋 清美

メンタルヘルス領域における摂食嚥下障害や摂食嚥下機能支援に関する国内外の文献レビューを行い、研究課題の明確化や研究方法を検討するとともに、摂食嚥下障害や摂食嚥下機能不全を解決するために必要とされる理論や方法論、技法について実証的に探究することを学修する。

・姫野 稔子

在宅高齢者に対する看護介入の効果ならびに看護介入モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・本田 多美枝

専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論、実践から学ぶ方法、実践能力の開発・熟達化に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・山勢 善江

クリティカルケアにおける家族看護の構造モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。

・乗越 千枝

急性期病院入院患者の退院計画や退院支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・守山 正樹

組織・集団、地域・コミュニティにおける健康生活支援に関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。